

第10回
平和シンポ NAGANO

原発シンポジウム

坂田雅子さん・マブソン青眼さん・森永敦子さんによるパネルディスカッション

『あれから3年まだ原発なの?』

● パネリスト

坂田雅子さん(さかた まさこ) 映画監督

1948年長野県須坂市生まれ。

2003年、夫の死をきっかけに枯葉剤の映画を作ることを決意、アメリカで映画制作を学ぶ。2007年ドキュメンタリー映画『花はどこへいった』で第26回国際環境映画祭の審査員特別賞(Prix Special du Jury)第63回毎日映画コンクールの特集『枯葉剤の傷痕を見つめて』で第48回ギャラクシー賞を受賞。2011年NHK ETV特集『枯葉剤の傷痕を見つめて』で第48回ギャラクシー賞を受賞。2011年ドキュメンタリー映画『沈黙の春を生きて』発表。

マブソン青眼さん(まぶそん せいがん) 俳人、比較文学者

1968年フランス生まれ。本名はMabesoone Laurent (マブソン ローラン)

十文字学園女子大学、信州大学非常勤講師。専門は小林一茶研究。脱原発アピール・黄色いリボンの提案者の一人でもある。10歳の時、ボードレールの「旅への誘い」を読み詩人になることを決心。16歳の時、交換留学中に県立宇都宮高等学校の図書館で松尾芭蕉句の英訳と出会い、志を「詩人」から「俳人」に改める。のちにパリ大学で日本文学を学び、25歳の頃から句作がフランス語から日本語に変わる。その後再来日し、1996年から長野市に居を構え、小林一茶の研究と執筆活動に専念。長野市の金曜日デモの発足者の一人。反原発句集『フクシマ以後・APRESFUKUSHIMA』(Edition Golias, 2012)等出版。

森永敦子さん(もりなが あつこ) NPO 手をつなぐ3.11 信州 代表

1960年兵庫県生まれ。阪神大震災・東日本大震災で被災。原発事故による放射能から子どもを守るために

2011年5月、白馬へ息子(現在中2)と避難。翌年松本に移住、避難者によるネットワーク「手をつなぐ3.11 信州」を立ち上げ、代表をとして避難者支援活動を行う。

2013年3月、県内の保養プログラムを行う団体によびかけ「子ども信州ネット」を発足、代表を兼務し、長野県内での活動をつないでいる。日本スクールソーシャルワーク協会会員

● 司会 芝山 豊さん 清泉女学院大学教授

● 日 時 / 平成26年3月9日(日) 開場:午後1時~ 開演:午後1時30分~3時30分

● 場 所 / 長野市生涯学習センター トイゴウエスト4階 大学習室1 026-233-8080(代表)

● 参加費 / 311円(資料代) ※お車で越越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

[主催/平和シンポ NAGANO]

お問合せ/清泉女学院 聖心館 026-295-6074 または 090-1866-0046 担当:窪寺